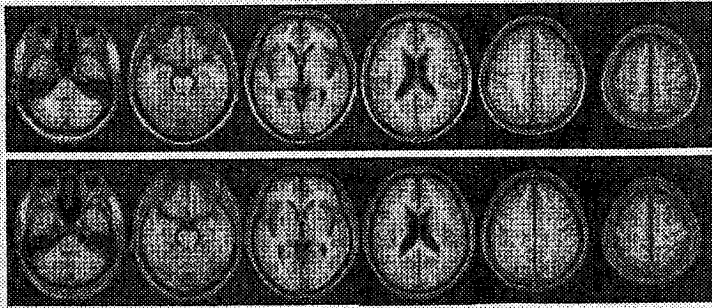


日本人の標準脳モデル作成が佳境に

60歳以上の平均脳MR画像



Aoba Brain Imaging Research Center, TAO

【仙台】高次脳機能のメカニズム解明に向けたプロジェクトを展開する「青葉脳画像リサーチセンター」(仙台市青葉区)の日本人の標準脳モデルづくりが佳境に入ってきている。これまで20～70歳代の健康な脳ボランティアを約650人募り、各年代ごと(男女別)に脳画像のデータベース(DV)化が進行中だ。一部は平均化作業に入り、60歳以上の平均脳画像では「脳の委縮度の男女差」を確認した。研究プロジェクトが終了する2001年3月末以降には、インターネット上で日本人の標準脳モデルを広く公開する予定だ。

青葉脳画像リサーチ

年代・男女別にDB化

脳の委縮度に男女差確認

郵政省の認可法人である 北大を中心に全国主要脳研

通信・放送機構(TAO)

究施設7サイトを高度情報

プロジェクトの名称は、

650人が脳ボランティア

による「青葉脳画像リサーチ

インフラで接続し、マルチ

「総合的先端画像情報通信

として参加。20～70歳代ま

「チェンター」(福田寛プロ

メディア・バーチャルラボ

ネットワーク技術に関する

年代別に脳画像のデータ

「シエクトリー」(東北大

「仮想的な研究」を利用

「研究開発」具体的な研究テ

ベータ化を図っており、カ

「加齢医学研究所教授」は、

「した高次脳機能の共同研究

「マは①マルチメディア

ナタの大学が開発したソフ

「98年1月に東北大加齢医学

「を進めており、研究の終了

「は01年3月末を予定してい

「はデータ取り。各年代別

「研究所内に設置された。東

「は01年3月末を予定してい

「はデータ取り。各年代別

「はデータ取り。各年代別

「は、これから佳境に向か

「は、これから佳境に向か

態の解析と立体・高細密度
映像コンテンツの制作③脳
画像データベースの制作と
検索を柱にしている。日
本人の標準脳作成はプロジ
エクトの一環として取り組
んでいるものだ。

日本人の標準脳モデルづ
くりは、現在のところ健康
な東北大の学生をはじめ約
業関係者、地元住民など約

に数百人程度が目標。その
後「データ解析に入る」(日
辻志事務局長)と説明。
日本人の標準脳モデルはま
だ医療現場になく、正常な

ところだが、これまで集
めたデータで60歳以上の平
均脳MR画像などすでにい
くつかの平均値を引き出し
ている。60歳以上(男女別)
の平均脳画像をみると、

研究成果はネット 上で広く公開予定

2001年3月末以降

「女性の方が男性より脳の
委縮度が緩いようだ」(日
辻事務局長)と、新たな知
見を得た。これから取り組
むデータ解析により、さま
ざまな日本人の脳の「なぞ」
が少しずつ明らかになって
きそうだ。

また青葉リサーチプロジ
エクトに続き、東北大など
は、世界的規模の共同研究
で「世界各国の標準脳作成」
に取り組み動きが浮上して
きた。東北大を中心にスウ

「エーデン、米国、独、カナ
ダなどの脳研究施設をネッ
トワーク化し、青葉リサー
チプロジェクトは違った国際的な
視点から新たなステップを
踏む検討を行っている。